
カメラ屋

ari sa

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カメラ屋

【Nコード】

N8612E

【作者名】

a r i s a

【あらすじ】

私のクラスには、おかしい噂がある。その噂とは…

(前書き)

あんまり怖くないですがまあ読んでやってください。

今ね、あたしの学校で、ヘンな噂があるのよ。学校の近くに、カメラ屋さんがあるの。そこは、ふるーい、ふるーいお店で、誰も入りがらないんだけど、そこにねえ、お化けが写るっていうカメラを売ってるっていうのよ。

おかしいでしょう。あるはず無いじゃない？そんなものあったら、マニアとかがとくに買いに来てるわよ。

ワルガキの昭広がさ、買いにいったらしいわ。でも……。

昭広、殺されたの。

身体中を引き裂かれて。

クラスの皆、怯えたわ。

「カメラの祟り」ってね。だからあたし、言ってやったのよ。そんな訳無いじゃない。昭宏は、サツジンキかなんかに殺されたのよって。

そしたら。

「じゃあ、証拠を見せてみなさいよ！」

ってハンカン買っちゃって。

そこで、あたし、そのカメラ屋さんに忍び込む事になった。カメラの祟りを信じてる、春香と一緒に。そのカメラ屋さんは、何でカメラ屋さんって分かるんだろうっていうくらい、古い。

「こんなところ、今でもやってるの？」

春香が、心配そうに呟いた。あたしも、それを考えてただけ。ここまで来たのに、今更帰れない。

門を開き、庭に入る。

人がいる気配は無い。

「カメラのカタハラ」という看板があった。

「さて。忍び込むわよ！」春香が、途端に元気になって、言った。何とか建物に忍び込む事ができた。

本当にボロボロで、埃っぽい。

「早くカメラを見つけましょう！」

そのとき。

「お探し物はコレかな？」 おじいさんの声がして。

振り向いたら。

おじいさんが、カメラを持って立っていた。

「あ……っ。何でおじいさんがカメラを……」

春香が、途切れ途切れに言った。

「ワシはこのカメラ屋の主だからなあ。このカメラもワシの物じ

ゃよ。」

「それ、本当にお化けが写るのかしら？」

あたしが聞くと、

「本当だとも。まあ、お茶でも飲みながら。」

おいしくない緑茶を飲みながら、カメラについていろいろきいてみた。

「いやあ、久々にいろいろ喋れて楽しかったよ。あの昭宏とか言うガキは、何にも喋らんとカメラを盗んで行こうとしてたからな。」

おじいさんがぼつんと言った。

「えっ……？じゃあ、まさか…昭宏を殺したのは、おじいさんなの？」

春香が、叫んだ。

「おや、喋りすぎてしまった。」まさか、まさか、まさかー本当に、おじいさんは、昭宏を、殺したの…。「いやああああああ！」私は叫んだ。だって、私達も殺されるかもしれないんだから。

「逃がさないよ。この建物も、お前たちを歓迎しておる」
ガチャガチャガチャ。

「何これ……っ。開かない！」

春香が叫ぶ。

そのカメラ屋に、二人の女の子の悲鳴が響き渡った。そして、天野春香と夢見留衣の二人のが、行方不明になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8612e/>

カメラ屋

2011年1月8日21時25分発行